

1. 研究課題名：三宅島 2000 年噴火後の生態系回復過程の解明と管理再生に関する研究

2. 研究代表者氏名及び所属： 加藤和弘（東京大学大学院
農学生命科学研究科）



3. 研究実施期間：平成 23～25 年度

4. 研究の趣旨・概要

三宅島では 2000 年から今日まで火山活動が続き、生態系に大きな影響が生じている。現状を速やかに把握した上で、生態系の保全・再生について至急検討し、具体策の実施に生かしていく必要がある。

本研究では、植生、鳥類、昆虫等の現地調査、衛星画像の解析などを通じて、生物群間の相互関係を含む島の生態系の現状を把握する。それに基づき、島の生態系を保全し生物多様性を維持するために何が必要か、植生や枯死木の管理、昆虫の発生への対処、動物の保全などの観点から提案する。

本研究は、固有性の高い種や亜種が多い三宅島の生物多様性の保全に寄与する。

5. 研究項目及び実施体制

(1) 三宅島生態系基盤の調査研究
(筑波大学大学院生命環境科学研究科)

(2) 鳥類の個体群変動に関する調査研究
(東京大学大学院農学生命科学研究科)

(3) 三宅島内動物群集生息状況の調査研究
(東邦大学理学部)

6. 研究のイメージ

研究の背景



- ・ 鳥類など動物の減少
- ・ 植被の減少や植生の質の変化
- ・ 昆虫の不規則な大量発生



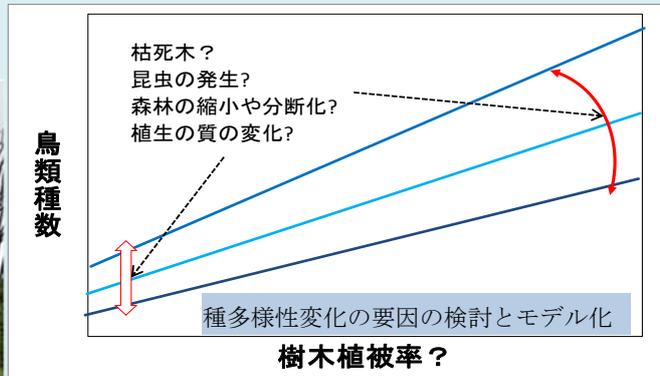
生態系に変化が起きている。
生物多様性の低下の懸念。

<対策が必要>

研究内容

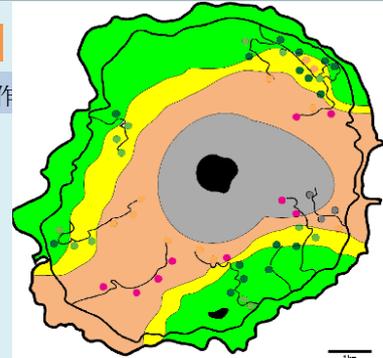
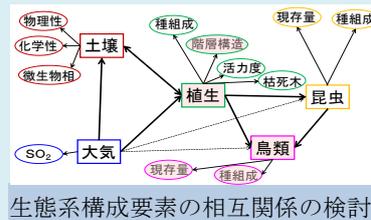


現地調査



結果の解析

生物相地図作成



期待される成果

(学術的には…)

- ・ 火山ガスの生態系影響に関する学術的な貢献
- ・ 枯死木が生態系において果たす役割に関する知見
- ・ 長期的な自然災害の生態系インパクトに関するモニタリング手法の提示

(応用的には…)

- ・ 三宅島の生態系や貴重な種の保全についての各種計画策定に対する直接的な貢献
- ・ 三宅島に関する情報発信
- ・ 島の自然の理解を観光や環境学習に生かしていくことによる、産業促進